

さみしいか淋しくはなし地虫出づ

藤田湘子

湘子先生には優れた企画力と行動力があり、盛大な俳句記念事業を次々と成功させ「お祭り湘子」とも呼ばれた。しかし、その反面寂しがりやのところもあつた。

句会後の二次会、三次会へお供すると帰りの挨拶は不要、先生の知らないうちに消え去るのを良しとされた。

ある懇親会で、少し離れた席の湘子先生が急に立腹され「俺は帰る」と言つて席を立たれ、出て行ったことがある。大庭紫峰編集長に「轍、連れ戻せ！」と命じられ、慌てて階段を駆け下りると、やるせなさそうに踊り場で立止まって待つておられた。人間誰しも空元気はあつても「淋しさ」を持つているのだと痛感した。

この句では、季語「地虫出づ」が出色である。

1999年(三作) 第十一句集『てんてん』 鑑賞・轍郁摩